

協力隊インタビュー
(松沢隊員：2年目)

1. 協力隊について
① 協力隊になろうと思ったきっかけは？
前職の会社で発行していた雑誌に、地域おこし協力隊の特集が掲載されていてそれを読んだことがきっかけになりました。
② 現在どんな活動をしているの？
主に、担当地区の「まちづくり協議会」のサポートをしています。 具体的には、小学校の地域学習のお手伝い、地域のイベントの企画、運営などを行っています。時には、住みよい街づくりのため、美化活動や草刈りなどの仕事をすることもあります。
③ 活動中のやりがいを教えて！
まちづくり協議会の不得手とする部分（例えば SNS の運用、チラシや販促物のデザイン）を補うことができると、自分の能力を発揮できるとともに、地域の方から「協力隊が来てくれて良かった」と言ってもらえるので、そういった場面ではとてもやりがいを感じます。
④ 活動中に困ること、大変なことはある？
担当地区や時期により、とても忙しくなり一つ一つのことに十分な時間がとれないようになると、もっとこうすることができたのになあ、と思うことがあります。 1年経ち、地域の方々との関係も築けてきたので、こちらから協力を仰ぐことも大切だなと思います。
⑤ 任期後の展望は？
出身地である東京との2拠点生活を考えています。 卒業後もまちづくり協議会のサポートができればいいなと思い、今、web デザインやカラーを勉強中です。コロナ禍で普及したフルリモート勤務の形態を利用して、東京にあるデザイン会社に就職し、宇佐から勤務したいと計画しています。
⑥ 副業はどんなことをしている？
湯布院のホテルでフロントと給仕の仕事をしています。 通勤に時間はかかりますが、普段とは違う職種なので気分転換にもなりますし観光地は賃金も比較的高いので良い条件で働いています。帰りにカフェ開拓をするのが最近の

<p>楽しみです。</p>
<p>⑦ 宇佐市の協力隊に求められる能力は？</p> <p>どこに行ってもそうだと思いますが、コミュニケーション能力は必須だと思います。外から来た人がその地域に馴染むには、とにかく話をして相手を知って自分を知ってもらうことから始まるのかな、と思います。</p> <p>宇佐市の中でも地域ごとに雰囲気も違うので、あくまで自分の担当地域では、になりますがご年配の方々と接することが圧倒的に多く、ジェネレーションギャップで、あちらに悪気はなくとも、こちらにとっては気を悪くするようなことを言われることもあります。いちいち気にせずスルーするスキルは持っていた方が、ストレスを感じにくいかと思います。</p>
<p>⑧ 協力隊になる前の経歴は？</p> <p>新卒で貿易会社の総合職になり、大阪支店に勤務していましたが、仕事の内容や環境が合わず退職。その後、東京に戻り前職の出版会社に3年間勤めました。</p>
<p>2. 宇佐市について</p>
<p>① なぜ宇佐市を選んだの？</p> <p>移住を考え始めたときに、ちょうど東京ビッグサイトで移住フェアがあり、色々な自治体を見て回りましたが、「そういえば大分県に旅行に行ったときに、宇佐に行きたかったけれど行けなかったな」と思い出し、宇佐市のブースにて話を聞き、住んでみたいと思い応募に至りました。</p>
<p>② 宇佐市の住み心地は？</p> <p>自分はすごく住み良いと感じています。田舎は不便、と聞くのでそれは覚悟で移住してきましたが、運転が苦でなければ、大抵のものはすぐに手に入りますし、病院が少し遠いことが不便だなあと感じる程度です。</p>
<p>③ 家賃の補助など現在の住環境は？</p> <p>初年度は市営の住宅に住んでいたのですが、自分の満足のいく住環境ではありませんでしたが、2年目の今は家賃補助で、自分の選んだ物件に住めているのでとても住み心地が良いです。</p> <p>今年度から宇佐市の協力隊の制度が変わり、今は初年度からでも自分で選んだ家に住むことができるので、これから着任する方々の住環境はとても良いと思います。</p>

④ 移住前と移住後のギャップはあった？
大きなギャップはありませんでした。
⑤ 宇佐市で生活する上で車は必要？
必要です。ないと生活が不便、暮らしにくいと感じてしまうと思いますので、必須だと思っています。
3. 未来の協力隊員にメッセージを！
宇佐で結びついた縁を一つ一つ大切にして、大それた目標や意気込みはなくとも、ここで自分にできる何かを見つけていける人なら、きっと豊かな毎日になれると思います。